

統計アラカルト

熊本の統計情報 平成28年4月28日

県民の皆様には統計を身近に感じていただくためのページです。

毎月1回のペースで色々な統計に関する話題・データを紹介します。



4月といえば…

～「入学式」 みんなピカピカの1年生～



日に日に温かさも増してきて春爛漫となってきました。

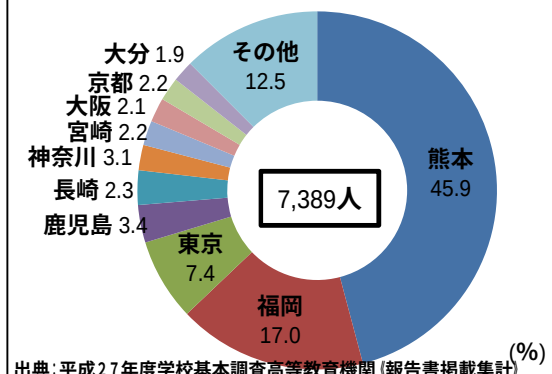
そこで、春爛漫な4月といえば「入学式」です。小学校・中学校・高等学校・大学といろんな入学式がありますが、今回は大学への進学状況を見ていきたいと思います。

それでは、熊本県内の高校出身者の進学先の大学を都道府県ごとに見てみましょう。

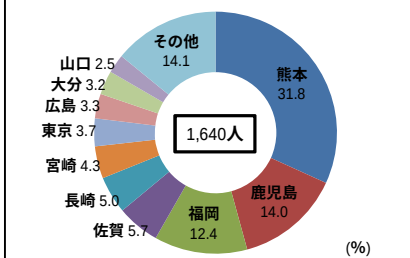
まず、総数で見ると熊本県の大学に45.9%(3,391人)が進学し、次いで福岡県に17.0%(1,254人)が進学しています。九州内で見ると、他に鹿児島県(4位)・長崎県(6位)・宮崎県(7位)・大分県(10位)が上位を占め、熊本県を含む九州内が72.7%(5,370人)となっています。

熊本県の大学に約半数が、九州内の大学に約4分の3が進学している状況です。

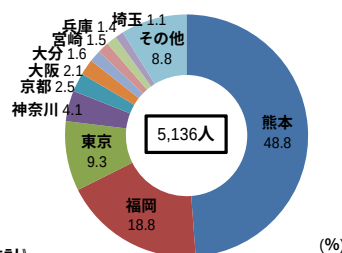
熊本県の高校出身者の進学先都道府県
(大学・総数)



熊本県の高校出身者の進学先都道府県
(国立大学)



熊本県の高校出身者の進学先都道府県
(私立大学)



出典:平成27年度学校基本調査高等教育機関(報告書掲載集計)

次に、国立・私立大学ごとに見てみると、熊本県の大学が国立・私立大学ともに1位ですが、国立大学では熊本を含む九州内が76.4%(1,252人)であるのに対し、私立大学では九州内が70.7%(3,634人)で国立大学と比較して5.7%低くなっています。

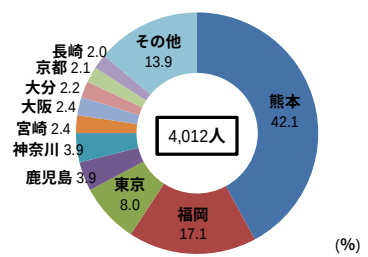
また、私立大学では神奈川県(4位)・京都府(5位)・大阪府(6位)・兵庫県(9位)・埼玉県(10位)と国立大学のトップ10にない府県が入っており、国立大学より、関東・関西方面に進学する割合が高くなっています。

次は、男女別に見てみましょう。熊本県の大学に男性は42.1%(1,690人)、女性は50.4%(1,701人)が進学しており、女性の方が熊本県に多く残っています。

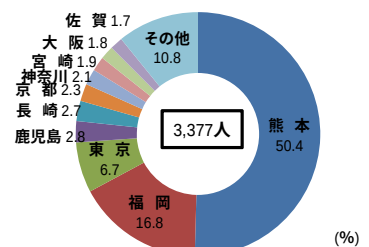
九州内では、男性が69.7%(2,801人)、女性が76.3%(2,574人)と、女性の方が6.6%高くなっています。

また、男女とも熊本県(1位)・福岡県(2位)・東京都(3位)・鹿児島県(4位)と同じ都県がトップ4であり、5位～10位では男性の大分県(8位)と女性の佐賀県(10位)以外は同じ府県がランクインしています。

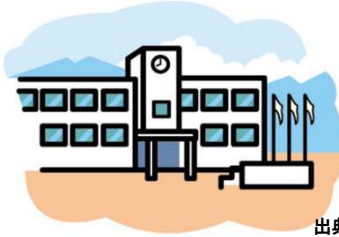
熊本県の高校出身者の進学先都道府県(男)



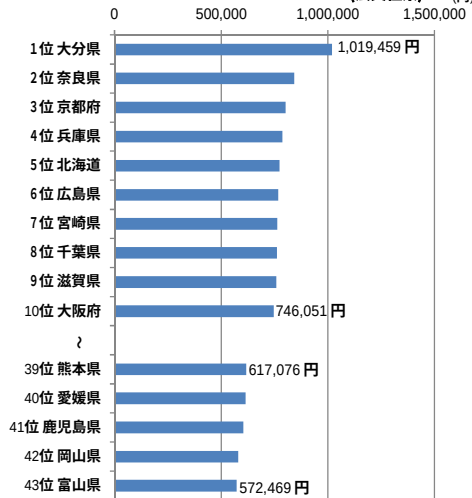
熊本県の高校出身者の進学先都道府県(女)



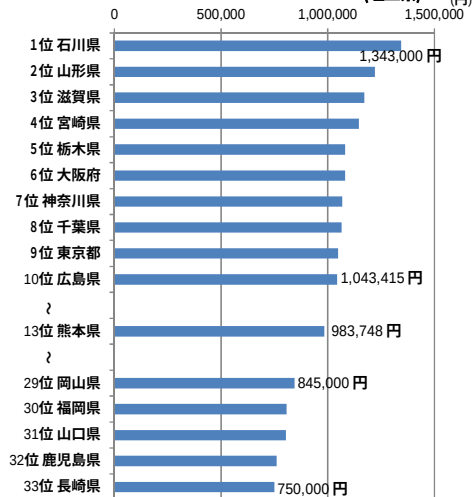
出典:平成27年度学校基本調査高等教育機関(報告書掲載集計)



平成26年度都道府県別私立大学授業料(円/年)
(法文経系)



平成26年度都道府県別私立大学授業料(円/年)
(理工系)



出典:小売物価統計調査年報 平成26年

大学に入学すると気になるのは「お金」のことですね。

ここでは、年間にかかる授業料(平均)について都道府県ごとに見ていきたいと思います。

国立大学の年間の授業料は535,800円(平成26年度)であり、平成17年度から10年間変わっていないようです。

私立大学の法文経系では、一番高いのは大分県の1,019,459円、安いのは富山県の572,469円で、熊本県は617,076円(39位)です。

次に、理工系では、一番高いのは石川県の1,343,000円、安いのは長崎県の750,000円で、熊本県は983,748円(13位)です。

熊本県の法文経系は全国的に見て安い方ですが、理工系は全国13位と高額な方です。

大学を卒業するまでには、授業料だけではなく、ほかにもたくさん「お金」が必要になります。

ピカピカの1年生のみなさん

「入学おめでとうございます。」

熊本県の統計情報は

「http://www.pref.kumamoto.jp/hpkiji/pub/List.aspx?c_id=3&class_set_id=1&class_id=1297」をご覧ください。

次回の「統計アラカルト」は、5月27日(金曜日)に掲載予定です。

問合せ先:熊本県企画振興部交通政策・情報局統計調査課 総務資料班 〒862-8570 熊本市中央区水前寺6-18-1

電話:096-333-2174 / Fax:096-384-7544 / メール:toukeichousa@pref.kumamoto.lg.jp

統計アラカルト

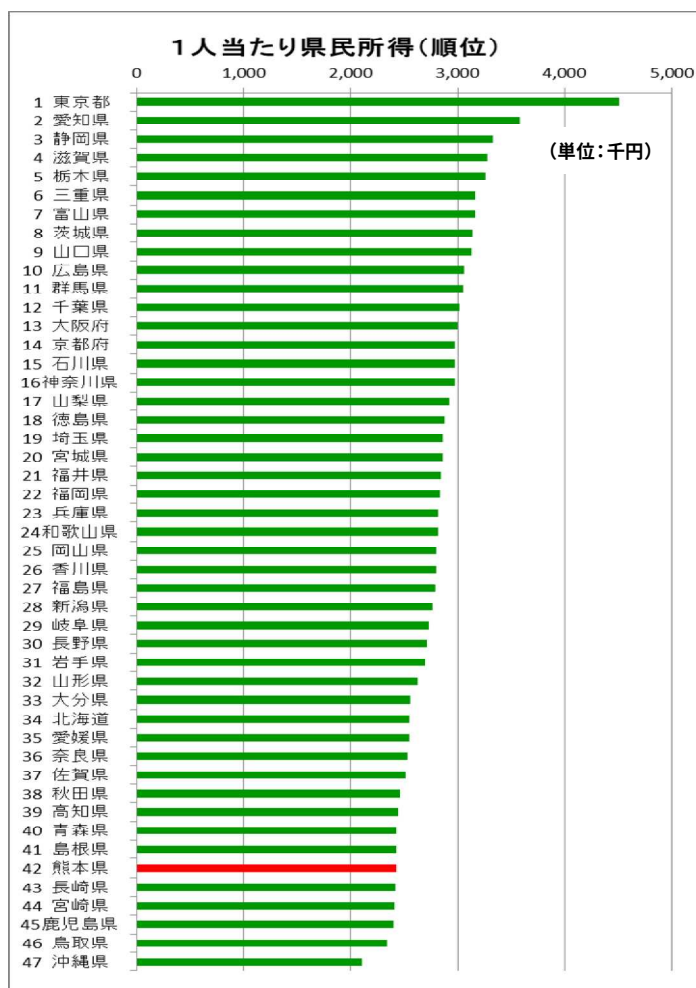
熊本の統計情報 平成28年6月6日

県民の皆様に統計を身近に感じていただくためのページです。

毎月1回のペースで色々な統計に関する話題・データを紹介します。

1人当たり県民所得 ～担当者のつぶやき～

先般（6月1日）、内閣府から「平成25年度県民経済計算」が公表されました。新聞では「1人当たり県民所得」がメインに取り上げられ、都道府県の順位付けが行われています。わが熊本県は42位で、残念ながら前年度の36位から順位を6つ落としてしまいました。これはこれで確かにそうなのですが、「ちょっと、待って!」と本県の県民経済担当がつぶやいています。



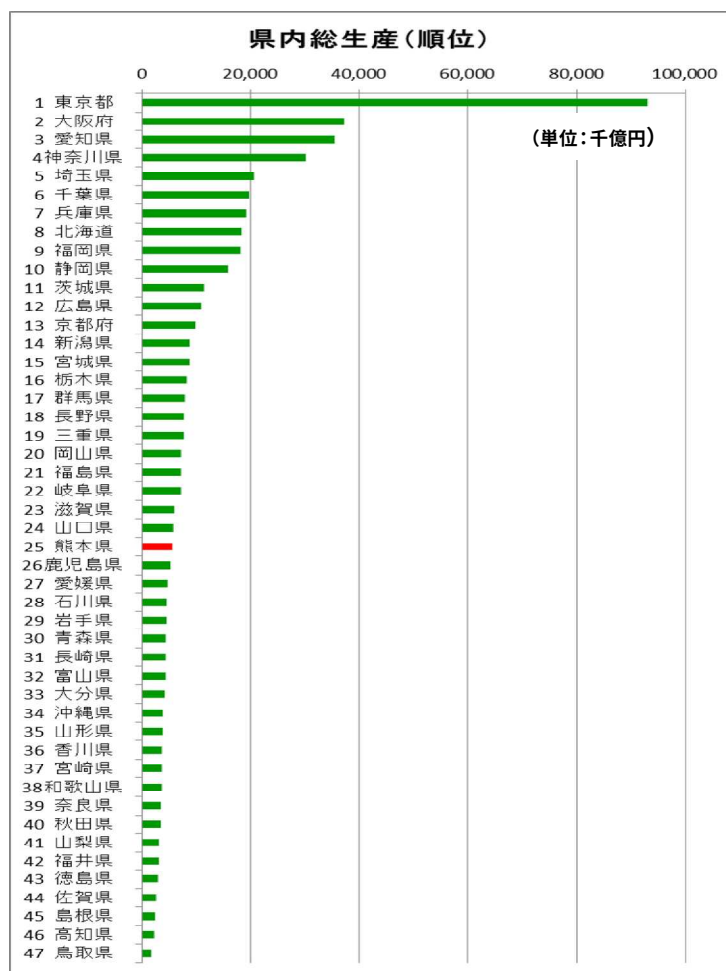
県民経済計算は、内閣府の示した基準に基づいて各都道府県がそれぞれ推計を行っている「総合的な経済統計」です。なので、「県民所得」=分配面だけでなく、生産面や支出面の推計も行っています。

簡単にいうと、経済活動で得られた稼ぎが「生産」で、その稼ぎが私たちの給与や企業の内部留保に「分配」され、家計での消費や企業の投資で「支出」されます。県民経済計算では、これらを1年間の年度（4月～3月）で区切って毎年推計しています。

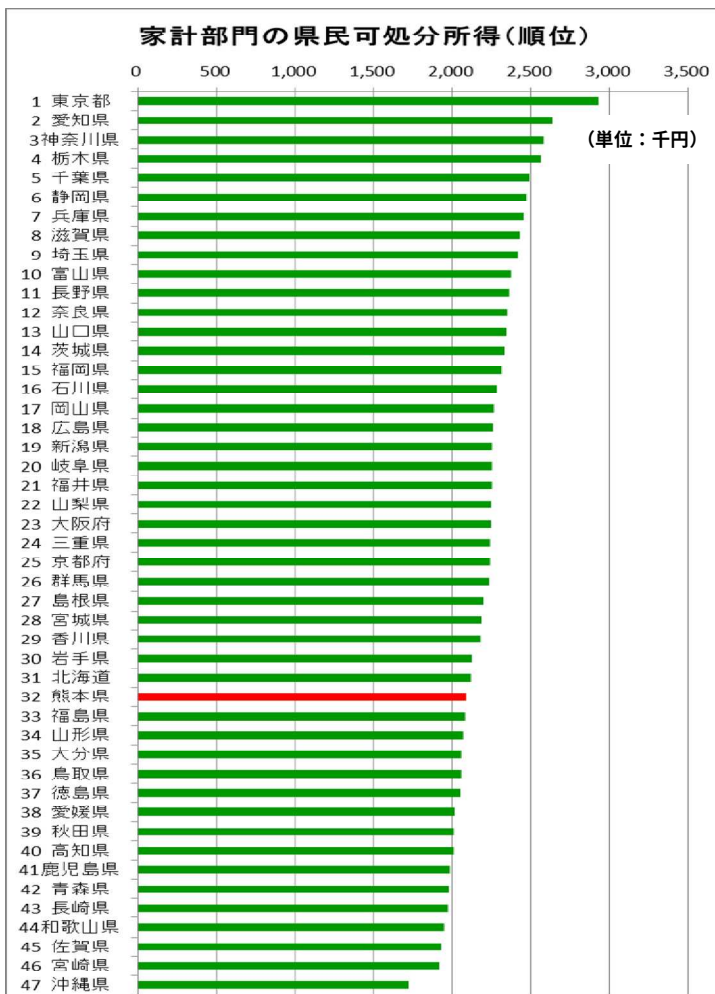
通常、経済力という場合は「生産面」のことでして、国際間の比較ではこの「生産面」(国でいえばGDP)に焦点が当てられます。中国の経済力は皆さんご存知のとおりですが世界経済に大きな影響力を持つようになり、マスコミでも中国の経済動向がよく取り上げられますよね。この「生産面」でみると我が熊本県は、全国順位25位で決して悲観するような数字ではありません。東日本大震災の時もそうですが、今回の熊本地震でもサプライチェーンの寸断で自動車産業をはじめとして全国経済活動が停滞しましたね。ですから、県民

経済計算では、まずはこの「生産面」に注目して欲しいんです。(グラフが見つらくてすみません)

次に県民所得(分配面)ですが、これを県内の総人口で割ったものが「1人当たり県民所得」です。県民所得という、いかにも「県民が得た収入」のような印象を受けますが、私たち家計の収入にまったく関係のない民間法人の企業所得(企業の内部留保)や国・地方公共団体の所得なども含んでいます。また、1人当たり県民所得は、働いていない年少者や高齢者を含んだ総人口で計算していますので、就業者1人当たりの収入とはかけ離れた数字になっています。なのに、「1人当たり県民所得」という言葉から大半の人が就業者1人当たりの収入と誤解しているんじゃないかと思っているんです。



それじゃあ、私たちの生活実感にもっと近い指標はないかという、あるんです。それは「**家計部門の県民可処分所得**」です。これも簡単に言うと県民所得から民間法人の企業部門や政府部門等を除いて、社会保障給付などを加えたものです。つまり、家計部門の収入である給与や年金等の合計です（ちょっと大雑把すぎですけど!）。この家計部門の県民可処分所得を総人口で割ると「**1人当たり県民可処分所得(家計部門)**」となりますが、これで全国順位を調べてみると、なんと**32位**でした。しかも、前年度の36位から4つも上がっていました。別に一喜一憂するわけではありませんが、それなりに悪くないんじゃないという気分にはなりますよね。



それともう一つ、おもしろい解釈があります。今回の県民所得が減少したのは、民間法人の企業所得が下がったことが主な要因なんですね。かたや、雇用者報酬（私たちの給与等）は増えているんです。つまり、県全体としてみれば、民間法人企業が自分の取り分を少なくして、県民により多く給与等を支給したということになるんです。熊本企業のみなさん、ありがとう、と言いたいところです。

みなさん分かっていただけたでしょうか？ちょっと難しかったかもしれませんが、本県の県民経済担当者は、「**1年かけて作り上げた成果をもっと皆さんに知ってほし〜い!**」と思いながら今日も推計作業に取り組んでいるのです。

熊本県の統計情報は

「http://www.pref.kumamoto.jp/hpkiji/pub/List.aspx?c_id=3&class_set_id=1&class_id=1297」をご覧ください。

次回の「統計アラカルト」は、6月24日（金曜日）に掲載予定です。

問合せ先：熊本県企画振興部交通政策・情報局統計調査課 総務資料班 〒862-8570 熊本市中央区水前寺 6-18-1

電話：096-333-2174 / F a x：096-384-7544 / メール：toukeichousa@pref.kumamoto.lg.jp

統計アラカルト

県民の皆様には統計を身近に感じていただくためのページです。熊本の統計情報 平成28年6月30日

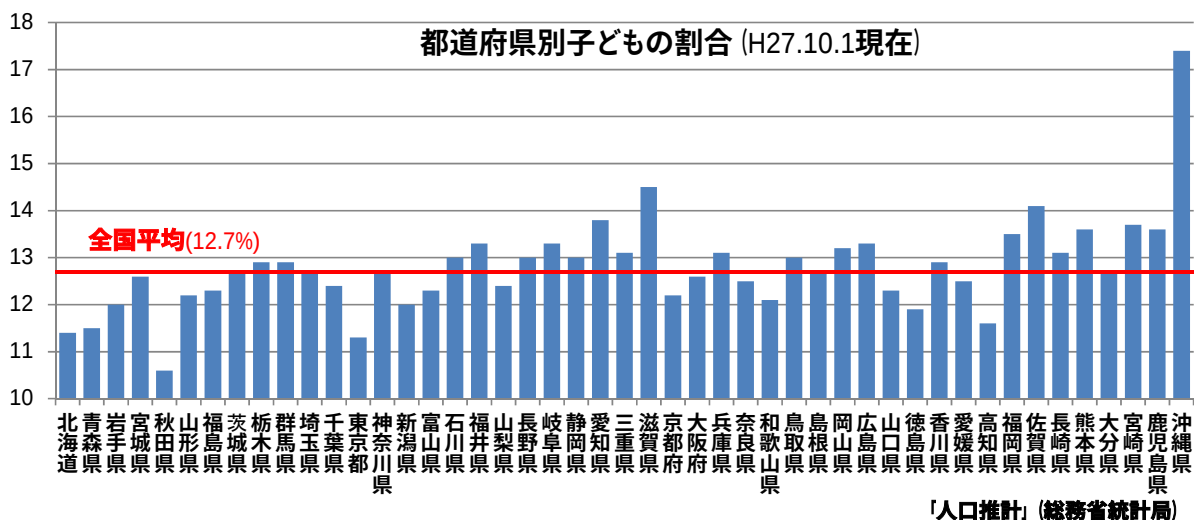
毎月1回のペースで色々な統計に関する話題・データを紹介します。

日本の将来は、大丈夫なの？

昨年の国勢調査では、大正9年の調査開始以来、初めて人口が減少しました。予想はされていましたが、ショックを受けられた方も多かったのではないのでしょうか。

また、総務省統計局では例年5月に、4月1日現在の子どもの数（15歳未満推計人口）を公表していますが、平成28年4月1日現在の全国の子どもの数は1,605万人で、昭和57年から35年連続の減少、全人口に占める割合は12.6%で、昭和50年から42年連続の低下となりました。都道府県で子どもの割合が前年より増加したのは、東京都のみでした。

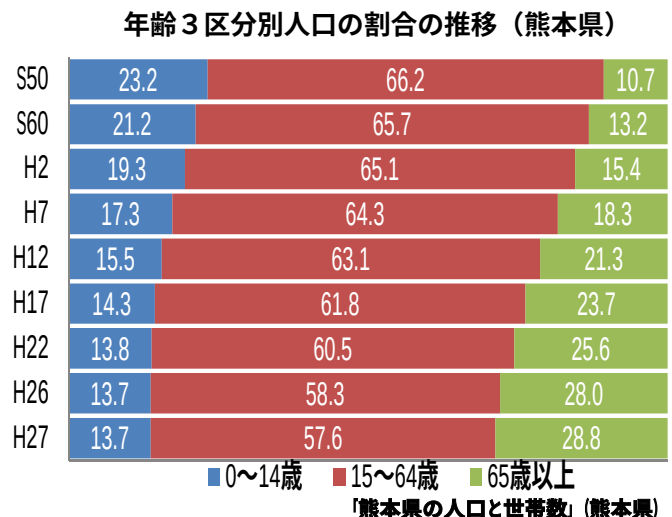
本県の状況を見ると、平成27年10月1日現在の子どもの数（0～14歳）は24万3千人、県人口に占める割合は13.6%で、昭和30年から減少傾向が続いていますが、全国平均12.7%を0.9ポイント上回り、全国6位です。

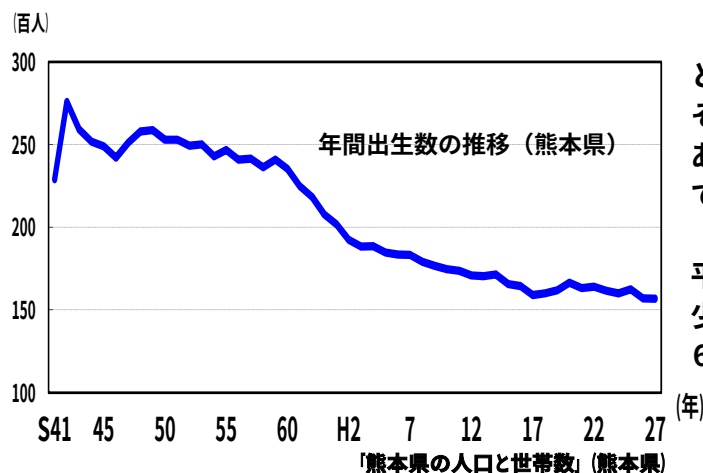
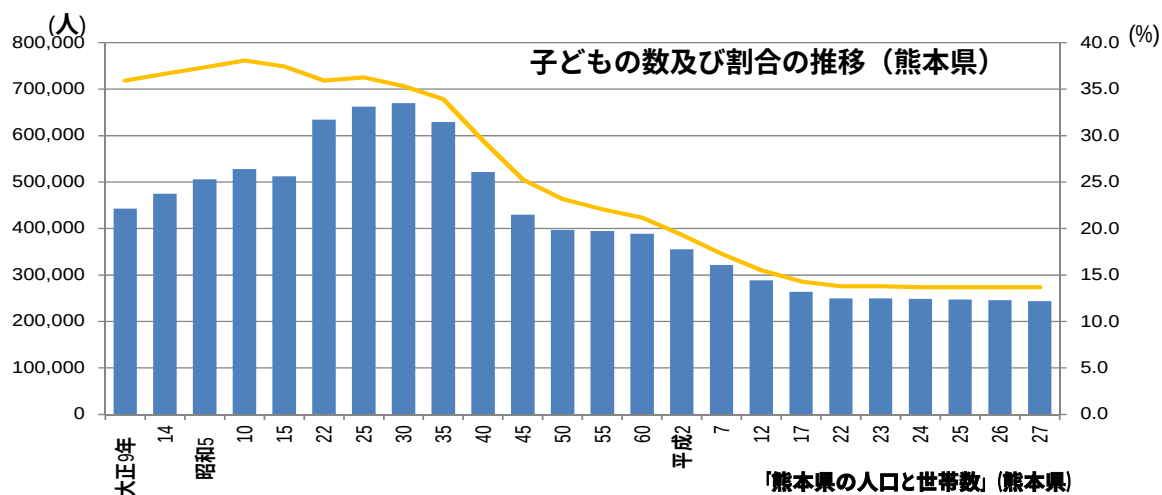


本県の年齢3区分別人口割合の推移を見ると、生産年齢人口（15歳以上65歳未満）割合は、減少傾向で57.6%、全国31位。老年人口（65歳以上）割合は年々増加し28.8%で、第1回国勢調査以降、過去最高で全国21位となっています。（いずれも割合が高い方を上位としています。）

また、生産年齢人口と老年人口の割合を見ると、本県では、1975年（昭和50年）に6.2人対1人だったのが、2015年（平成27年）には2人対1人、2040年（平成52年）には、1.6人対1人になると推計されています。

「地域別将来推計人口」(国立社会保障・人口問題研究所) 及び
「熊本県人口ビジョン将来展望」





本県の昭和40年以降の出生数の推移を見ると、昭和42年に27,588人とピークを迎え、その後昭和40～50年代は、多少の増減はあったものの、概ね2万4千人～2万5千人台で推移していました。

昭和60年代になると、減少傾向が強まり、平成2年には2万人を割り込み、長期的に減少傾向を示しながら、ここ数年間は1万5千～6千人台で推移しています。

将来推計人口によれば、今後日本の総人口は減少が続き、2040年（平成52年）には全ての都道府県で2010年（平成22年）の人口を下回ります。また、子どもの割合は低下し約10%になります。

これまで先進国では経験したことがないスピードで、人口減少、少子化・高齢化が進んでいます。

このままで日本の将来は大丈夫なの？ 今、私たちは何をすべきなの、何ができるの？

人口減少、少子高齢化の影響

- ◆生産年齢人口の減少に伴う労働力不足、地域経済規模の縮小
- ◆担い手の減少に伴うものづくり分野の技術・技能の継承困難
- ◆老年人口増加に伴う医療福祉分野の労働力不足、社会保障費の一人当たり負担増
- ◆地域活動の担い手の減少に伴う地域コミュニティ維持・存続困難、地域文化の継承困難

（熊本県人口ビジョン（概要版））

熊本県の統計情報は

「http://www.pref.kumamoto.jp/hpkiji/pub/List.aspx?c_id=3&class_set_id=1&class_id=1297」をご覧ください。

次回の「統計アラカルト」は、7月29日（金曜日）に掲載予定です。

問合せ先：熊本県企画振興部交通政策・情報局統計調査課 総務資料班 ☎862-8570 熊本市中央区水前寺6-18-1

電話：096-333-2174 / Fax：096-384-7544 / メール：toukeichousa@pref.kumamoto.lg.jp

統計アラカルト

熊本の統計情報 平成28年7月29日

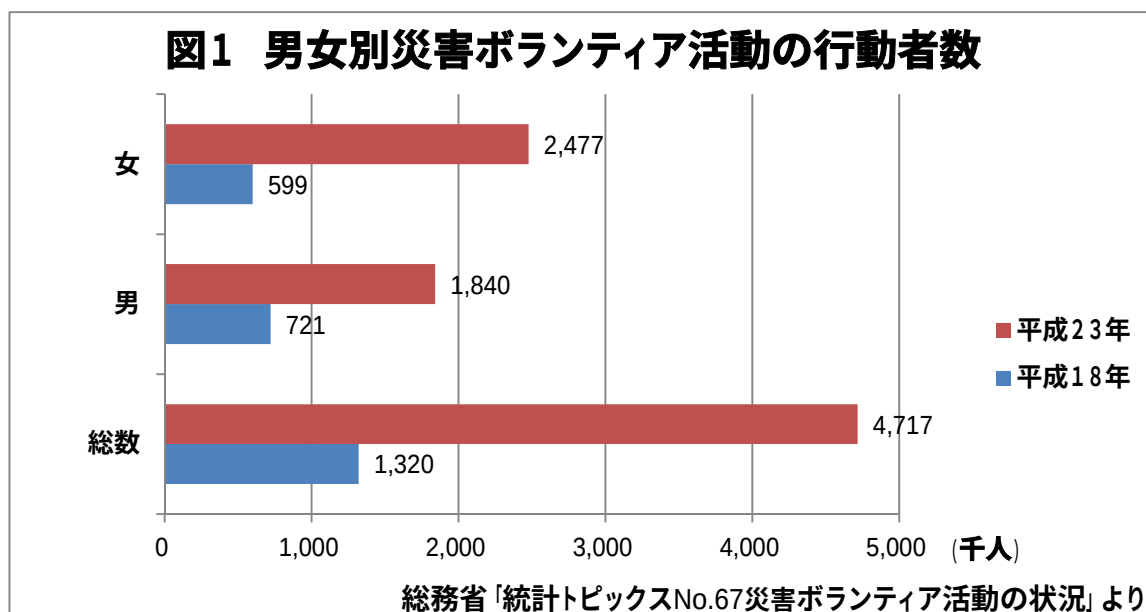
県民の皆様には統計を身近に感じていただくためのページです。
毎月1回のペースで色々な統計に関する話題・データを紹介します。



社会生活基本調査から見える 国民の時間の使い方



4月の熊本地震で被害に遭われた方には心からお見舞い申し上げます。
また、地震の後、自衛隊の方々や他県の行政・警察関係者の方々、水道・ガス等のライフライン関係者の方々、県内外のボランティアの方々等から、たくさんの支援をいただきありがとうございました。
今回の統計アラカルトでは、まず災害ボランティアの活動状況について取り上げます。



このグラフは、平成18年と平成23年の10月20日を基準として、それぞれ過去1年間に災害ボランティア活動を行った人の数を表したもので、平成23年の行動者数は、平成18年に比べて約3.5倍になっています。

これは、平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、災害ボランティア活動を行った人が急増したためと思われます。

国においては、このように、国民がどんな活動に時間を費やしたかを把握するため、5年に1度、「社会生活基本調査」を実施しています。

「社会生活基本調査」は、過去1年間の主な活動として24項目、1日の時間の使い方として20項目にわたり詳細に記録をし、回答していただくものです。

同様な調査は、世界各国、各地域でも行われており、例えば、国際的な比較において、日本人男性の家事参加が少ないといった指摘の根拠となっています。

それでは、次の表で国際的に比較した、1日の時間の使い方について見てみましょう。なお、国や地域により、調査項目の定義の相違があるため、参考としてご覧ください。

表1 男女、行動の種類別総平均時間－週全体

		(時間、分)											
		日本	韓国 ^{*1)}	アメリカ ^{*2)}	カナダ ^{*2)}	ベルギー	ドイツ	フランス	ハンガリー	フィンランド [*]	スウェーデン	イギリス	ノルウェー ^{*3)}
男	個人的ケア	10.56	10.52	10.31	10.51	11.05	10.53	11.56	11.05	10.32	10.16	10.38	10.11
	睡眠	8.05	7.50	8.37	8.11	8.28	8.23	8.56	8.37	8.33	8.03	8.33	8.10
	身の回りの用事と食事	2.51	3.02	1.54	2.40	2.38	2.30	3.00	2.28	1.59	2.14	2.05	2.01
	仕事と仕事中の移動	4.57	4.04	4.14	4.15	2.39	2.51	3.16	3.10	3.12	3.57	3.26	3.25
	学習	0.52	1.29	0.29	0.34	0.45	0.34	0.31	0.30	0.34	0.13	0.35	0.34
	家事と家族のケア	1.08	0.39	2.19	2.29	2.24	2.10	2.16	2.32	2.05	2.33	2.08	2.08
	自由時間	4.47	4.46	6.09	5.50	5.37	6.02	4.58	5.39	6.13	5.28	5.37	6.17
	ボランティア活動	0.05	0.00	0.20	0.21	0.10	0.16	0.16	0.13	0.15	0.13	0.09	0.09
	他の自由時間	4.42	4.46	5.49	5.29	5.27	5.46	4.42	5.26	5.58	5.15	5.28	6.08
	うちテレビ	2.29	1.51	2.59	2.17	2.24	2.02	2.12	2.49	2.26	2.02	2.40	2.10
	移動	1.17	1.53			1.30	1.26	1.00	1.03	1.11	1.27	1.27	1.20
	うち通勤	0.33	0.40				0.21	0.20	0.24	0.15	0.21	0.25	0.22
	その他	0.04	0.16	0.17			0.05	0.03	0.00	0.14	0.06	0.09	0.05
女	個人的ケア	11.06	10.53	10.56	11.13	11.24	11.11	12.11	11.08	10.47	10.42	10.57	10.31
	睡眠	7.54	7.50	8.48	8.22	8.41	8.30	9.10	8.49	8.42	8.12	8.40	8.21
	身の回りの用事と食事	3.12	3.02	2.08	2.51	2.42	2.41	3.01	2.18	2.05	2.30	2.18	2.10
	仕事と仕事中の移動	2.27	2.22	2.57	3.00	1.29	1.34	1.55	2.02	2.04	2.40	1.56	2.11
	学習	0.50	1.21	0.27	0.37	0.42	0.32	0.30	0.30	0.36	0.18	0.35	0.37
	家事と家族のケア	4.02	3.09	3.39	3.53	4.05	3.50	4.12	4.39	3.32	3.44	3.47	3.24
	自由時間	4.20	4.24	5.43	5.16	5.05	5.31	4.18	4.50	5.42	5.09	5.12	6.01
	ボランティア活動	0.04	0.02	0.23	0.24	0.09	0.14	0.12	0.08	0.14	0.12	0.12	0.09
	他の自由時間	4.16	4.22	5.20	4.52	4.56	5.17	4.06	4.43	5.28	4.58	5.00	5.52
	うちテレビ	2.20	1.53	2.32	1.55	2.13	1.46	2.02	2.40	2.08	1.45	2.17	1.44
	移動	1.09	1.34			1.16	1.17	0.51	0.51	1.06	1.20	1.21	1.10
	うち通勤	0.18	0.23				0.11	0.13	0.14	0.12	0.16	0.14	0.15
	その他	0.07	0.18	0.18			0.05	0.03	0.00	0.14	0.07	0.10	0.05
調査年月		2011.10	2009.9	2011.1～ 2011.12	2010.1～ 2010.12	1998.12～ 2000.2	2001.4～ 2002.4	1998.2～ 1999.2	1999.9～ 2000.9	1999.3～ 2000.3	2000.10～ 2001.9	2000.6～ 2001.9	2000.2～ 2001.2
集計対象年齢		10歳以上	10歳以上	15歳以上	15歳以上	12～95歳	10歳以上	15歳以上	15～84歳	10歳以上	20～84歳	10歳以上	10～79歳

*1) 買い物は関連する目的の行動に含まれている。 *2) 移動は関連する目的の行動に含まれている。 *3) 学習は学校での学習のみ。

注) 国により定義の相違があるため、比較には注意を要する。

出典：日本は「平成23年社会生活基本調査 詳細行動分類による生活時間に関する結果」。小分類レベルでEU比較用に組替えた行動分類による。

韓国はKorea National Statistical Office, "2009 Report on the Time Use Survey"

アメリカはU.S.Bureau of Labor Statistics(BLS), "American Time Use Survey - 2011 Results"

カナダはStatistics Canada, "General Social Survey - 2010 Overview of the Time Use of Canadians"

EU諸国はEUROSTAT, "Comparable time use statistics - National tables from 10 European countries - February 2005"

出典：e-Stat 政府統計の総合窓口

平成23年社会生活基本調査＞調査票Bに基づく結果＞生活時間に関する結果＞(参考)生活時間配分の各国比較

表1は、男女別に1日の行動時間を、行動の種類ごとに分けた平均値です。

日本の男性の「睡眠」は8.05で、平均8時間5分睡眠をとっているという意味です。日本の女性は7時間54分で睡眠時間はあまり男性と変わりません。

一方、「家事と家族のケア」については、男性1時間8分、女性4時間2分で、女性は男性の約3.6倍となっています。

他の国と比較してみると、日本の女性は、12ヶ国中、長い方から4番目であるのに対し、日本の男性は、短い方から2番目で、しかも日本と韓国以外の10か国の男性は2時間を超えているという状況です。客観的に見て日本の男性はもう少し、家事に参加したほうがよさそうです。

このように、社会生活基本調査は、多様化した国民の生活時間の配分及び自由時間における主な活動について調査し、国民の社会生活の実態を明らかにすることにより、各種行政施策の基礎資料を得ることを目的として、昭和51年から国勢調査の翌年に行われています。

今年、平成28年は社会生活基本調査の実施の年となっており、県内では約1600世帯が対象となります。

10月20日が基準日で、9月初めから調査の準備を始めますので、対象となられた方は、多くの県民の代表として積極的に御協力いただきますようお願いいたします。

熊本県の統計情報は

「http://www.pref.kumamoto.jp/hpkiji/pub/List.aspx?c_id=3&class_set_id=1&class_id=1297」をご覧ください。

次回の「統計アラカルト」は、8月29日(金曜日)に掲載予定です。

問合せ先：熊本県企画振興部交通政策・情報局統計調査課 総務資料班 〒862-8570 熊本市中央区水前寺6-18-1
電話：096-333-2174 / Fax：096-384-7544 / メール：toukeichousa@pref.kumamoto.lg.jp

統計アラカルト

熊本の統計情報 平成28年9月27日

県民の皆様に統計を身近に感じていただくためのページです。

毎月1回のペースで色々な統計に関する話題・データを紹介します。

8月の熊本は、やっぱり暑かった！

◆H28年8月の全国の天候

○北日本では顕著な多雨

(記者発表資料「8月の天候」気象庁から)

北日本 北日本では、台風第5号、6号、7号、第11号が相次いで接近・上陸し、前線や湿った気流の影響が加わり、月降水量はかなり多くなりました。

特に北日本太平洋側では、月降水量が平年比231%となり、統計を開始した1946年以降、8月として1位の多雨となりました。

○全国的に高温

日本付近は暖かい空気に覆われやすく、月平均気温は全国的に高くなりました。

○北日本日本海側と西日本では顕著な多照

北日本日本海側と西日本では、高気圧に覆われやすく、月間日照時間はかなり多くなりました。

異常気象？

日本に上陸した台風は4個(第7号、11号、9号、10号)で平年値0.9個を大きく上回り、ひと月の上陸数としては統計を開始した1951年以降ではトップタイとなりました。また、日本に接近した台風は6個で、平年値3.4個を上回りました。

全国の天気概況

8月は太平洋高気圧に覆われ、ほぼ全国的に月間日照時間が長く、強い日射を受けて全国的に月平均気温は高くなりました。

特に、黄海付近では高気圧の勢力が強く背の高い高気圧に覆われたため、月平均気温は沖縄・奄美でかなり高くなりました。

西日本でも下旬の中頃までは気温はかなり高く経過し、下旬の終わりは寒気が流れ込みかなりの低温となった日もあったものの月平均気温は高くなりました。

一方、日本の南海上では対流活動が活発で、月の後半は日本のはるか東で高気圧の勢力が強まり、その西縁にあたる東日本太平洋側から北日本を中心に台風や気流の影響を受けやすくなりました。

	気温平年差 (°C)	降水量平年比 (%)	日照時間平年比 (%)
北海道	1.9 (+)	209	122
日本海側		159	129
オホーツク海側		302	125
太平洋側		225	111
東北	1.1 (+)	190	124
日本海側		161	128
太平洋側		210	121
関東甲信	0.6 (+)	181	96
北陸	0.4 (+)	98	117
東海	0.9 (+)	84	115
近畿	0.7 (+)	103	122
日本海側		129	122
太平洋側		93	123
中国	0.5 (+)	120	124
山陰		145	123
山陽		90	124
四国	1.1 (+)	59	129
九州北部	1.2 (+)	59	135
九州南部・奄美	0.9 (+)	39	123
本土	1.0 (+)	27	126
奄美	0.7 (+)	96	108
沖縄	0.8 (+)	68	104

熊本県の天気概況

天気は、強い日射や湿った空気の影響で、午後を中心に雨や雷雨となった所がありましたが、高気圧に覆われて晴れる日が多くなりました。このため、高温・少雨・多照の傾向が顕著でした。

「月平均気温」については、5観測所において、従来の最高値が更新（又はタイ記録）された。

平成28年8月の気候統計

「熊本県気象月報 平成28年8月」
(熊本地方気象台から)

観測地点	月平均気温 (°C)		最高気温が35°C以上の日数		日降水量が10mm以上の日数	
	H28年8月	平年	H28年8月	平年	H28年8月	平年
熊本	29.5	28.2	22	7.2	2	4.7
阿蘇山	21.5	20.4	0	0	7	7.1
人吉	27.7	26.3	19	1.6	3	5.5
牛深	29.3	28.1	6	1.6	1	4.6

月平均気温 (記録更新及びタイ記録)

観測所名	更新値	従来の最高値 (観測年月)	統計開始年
岱明	29.5°C	29.5°C (2010/8)	1977
菊池	28.5°C	28.5°C (1994/8)	1977
甲佐	28.2°C	28.1°C (2013/8)	1977
水俣	28.6°C	28.6°C (2010/8)	1977
人吉	27.7°C	27.3°C (2013/8)	1943

熊本県、全国トップ！ ～ 熱中症による人口10万人あたりの救急搬送人員数

毎年、梅雨明けの頃になると、熱中症による死亡事故のニュースがテレビや新聞で報じられています。熱中症の要因としては、①環境（気温が高い、湿度が高いなど）、②からだ（高齢者や乳幼児、二日酔いや寝不足といった体調不良など）、③行動（激しい筋肉運動、長時間の屋外作業など）の3つが関与していると言われ、特に、気温が一定のレベルを超えると急激に増加する傾向があります。

今年8月の熱中症による全国の救急搬送人員数は、21,383人で昨年同月に比べ、2,542人の減となっていますが、九州地方では増加しており、都道府県別人口10万人当たりの救急搬送人員数では、熊本県が最も多く39.00人で、次いで鹿児島県35.97人、長崎県31.57人、岡山県31.21人、高知県28.55人の順となっています。

熱中症による人口10万人あたりの救急搬送者数

	5月	6月	7月	8月
1位	沖縄県 (9.69)	沖縄県 (17.36)	熊本県 (34.20)	熊本県 (39.00)
2位	佐賀県 (4.56)	鹿児島県 (6.73)	佐賀県 (31.20)	鹿児島県 (35.97)
3位	岡山県 (4.42)	熊本県 (5.65)	岡山県 (30.59)	長崎県 (31.57)
4位	熊本県 (4.06)	岡山県 (4.94)	鹿児島県 (30.20)	岡山県 (31.21)
5位	島根県 (4.03)	高知県 (4.94)	鳥取県 (27.19)	高知県 (28.55)

「平成28年5～8月の熱中症による救急搬送状況」 (消防庁)

熊本県の統計情報は

「http://www.pref.kumamoto.jp/hpkiji/pub/List.aspx?c_id=3&class_set_id=1&class_id=129」をご覧ください。

次回の「統計アラカルト」は、10月28日（金曜日）に掲載予定です。

問合せ先：熊本県企画振興部交通政策・情報局統計調査課 総務資料班 〒862-8570 熊本市中央区水前寺6-18-1

電話：096-333-2174 / Fax：096-384-7544 / メール：toukeichousa@pref.kumamoto.lg.jp

統計アラカルト

熊本の統計情報 平成28年10月28日

県民の皆様には統計を身近に感じていただくためのページです。

毎月1回のペースで色々な統計に関する話題・データを紹介します。



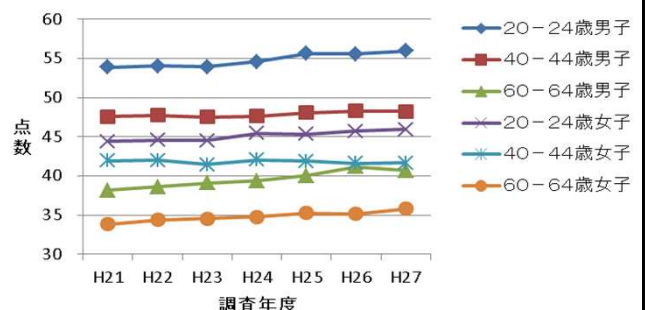
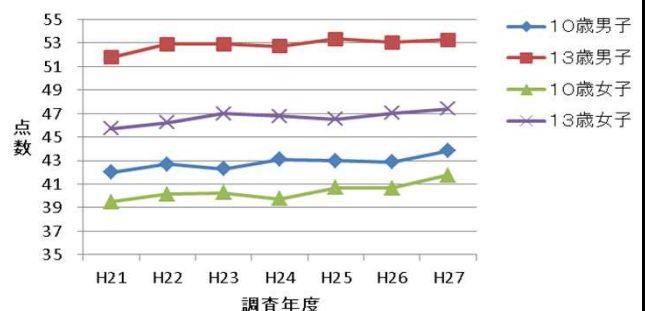
食欲の秋、読書の秋、行楽の秋・・・



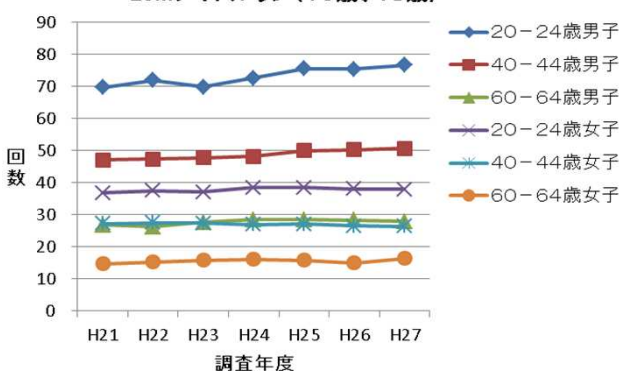
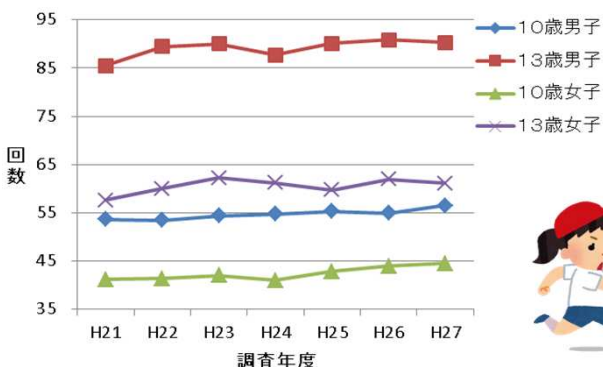
猛暑が続いた夏も終わり、過ごしやすい季節になりました。タイトルのとおりいろいろな楽しみがある『秋』ですが、今年はリオデジャネイロオリンピック・パラリンピックもありましたので、『スポーツの秋』にちなんで、『運動』に係る調査について見ていきます。

まずは、6歳以上79歳以下を対象に行う『体力・運動能力調査』を元に、全国規模での各世代の体力・運動能力がどのように変化しているか見ていきます。

右のグラフは、各世代・男女別の反復横跳びの成績です。平成21年と平成27年の成績を比較すると、全体的に成績が向上しているのがわかります。特に、10歳・13歳、20～24歳、60～64歳の世代の成績が良くなっているのが見て取れます。



出典: 体力・運動能力調査



出典: 体力・運動能力調査

続いて、20mシャトルランの成績を見ていきます。左の図は各世代・男女別の20mシャトルランの回数を表したグラフになります。こちらも平成21年と比較して、平成27年の調査で全体的に成績が向上しています。

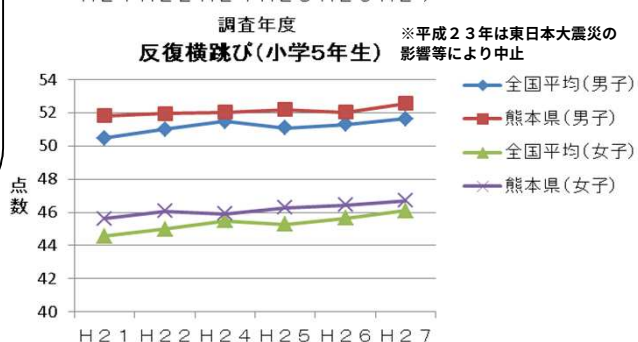
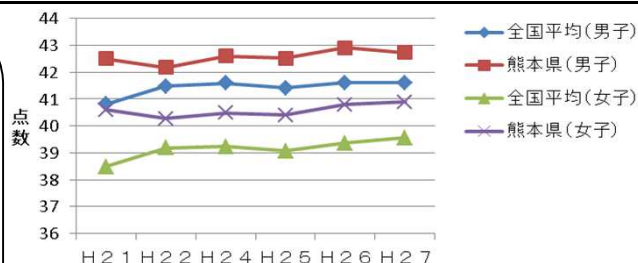
特徴的なのは、2種目とも60～64歳の世代で成績が向上していたことです。おじいちゃんおばあちゃん世代がますます元気になられている証拠でしょうか。

次に、熊本県内での『運動』に係る調査の結果について見ていきます。

体力・運動能力調査では都道府県別の調査結果が公表されていませんでしたので、代わりに小学校5年生及び中学校2年生を対象に行う全国体力・運動能力、運動習慣等調査の調査結果について見ていきます。

右のグラフは反復横跳びの成績ですが、小学5年生では、全国平均と比較して増加傾向が弱くなっていますが、各調査年で全国平均よりも高い点数となっています。

中学2年生では、全国平均と同じような増加傾向が見られ、ここでも全国平均より高い点数を記録していました。

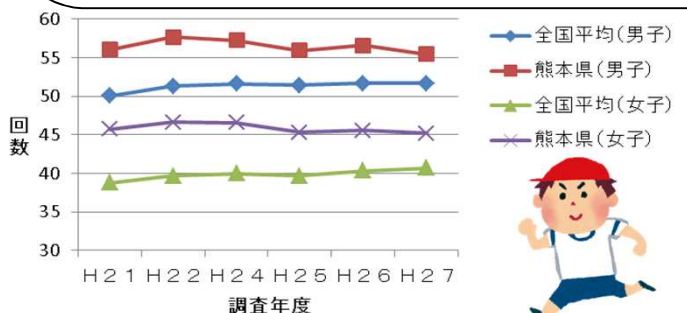


反復横跳び(小学5年生)

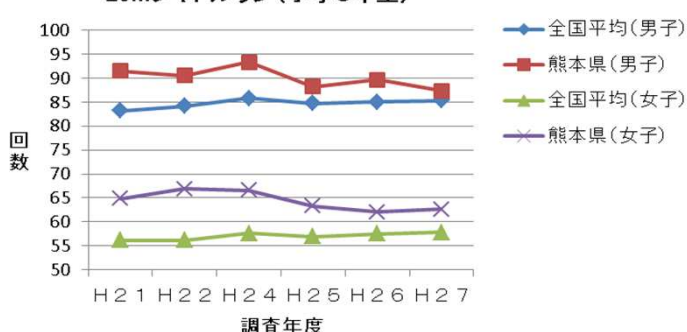
出典:全国体力・運動能力、運動習慣等調査

左の図は20mシャトルランの回数を表したグラフになります。全国平均は反復横跳びと同様、増加傾向が見られます。逆に、熊本県では、小学5年・中学2年の男女ともに減少傾向が見られる結果となりました。ただし、20mシャトルランの成績そのものについては、全国平均よりも高い成績を記録していました。

反復横跳びは敏捷性、20mシャトルランは持久力の調査項目です。熊本県内の児童は、その二点の運動能力について、全国平均よりも優れた結果となりました。



20mシャトルラン(小学5年生)

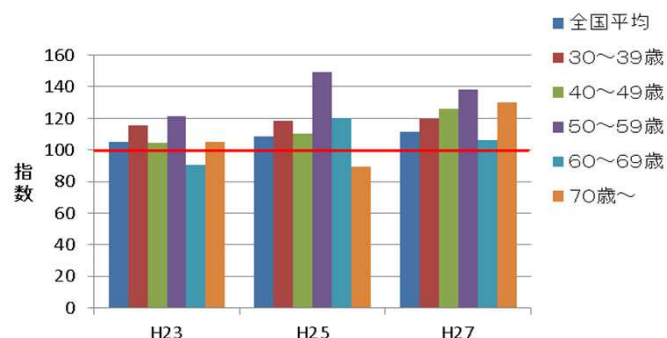


20mシャトルラン(中学2年生)

出典:全国体力・運動能力、運動習慣等調査

最後に、『運動』に係るお金の調査結果について見ていきます。家計調査よりスポーツ月謝の推移を表したグラフを見ると、すべての世代で平成27年の数値が平成21年より増加しており、運動や健康への関心が高まっているのではないかと考えられます。

くれぐれも怪我には気を付けて、
スポーツの秋を楽しみましょう。



調査年度(隔年)

スポーツ月謝の推移 ※H21の数値を100とする。

出典:家計調査

熊本県の統計情報は

「http://www.pref.kumamoto.jp/hpkiji/pub/List.aspx?c_id=3&class_set_id=1&class_id=1297」をご覧ください。

次回の「統計アラカルト」は、11月25日(金曜日)に掲載予定です。

問合せ先:熊本県企画振興部交通政策・情報局統計調査課 総務資料班 〒862-8570 熊本市中央区水前寺6-18-1

電話:096-333-2174 / Fax:096-384-7544 / メール:toukeichousa@pref.kumamoto.lg.jp

統計アラカルト

熊本の統計情報 平成28年11月30日

県民の皆様に統計を身近に感じていただくためのページです。

毎月1回のペースで色々な統計に関する話題・データを紹介します。

ま・ま・まさか

!?野菜がこんなに?!

11月が終わり、今年も残すところわずかとなりました。朝晩もグッと冷え込み、お鍋がおいしく恋しい季節ですね。友人、家族などたくさんの人達と一緒に食べる鍋は心も体も温まりますよね〜♪

しか〜し、そんなお鍋シーズンにも関わらず、まだ実現できていない方も多いのではないのでしょうか？

それもそのはず!!!今まで私たちの「身近」で「手ごろ」であった野菜の価格が高騰しています。原因は今夏の猛暑、台風、長雨など様々だと言われております。その結果、ある県では材料費高騰の余波で学校給食が数日間中止になるかもしれないという話も出たほどです。家庭のみならず、学校現場、外食産業など様々なところで切実に悩んでおられることと思います。

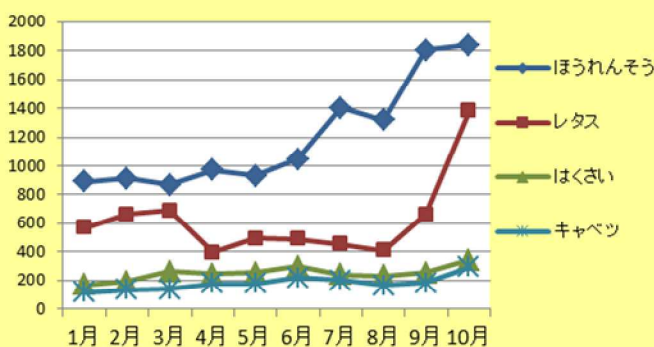
そこで、今回は私たちの生活において、なくてはならない『野菜』について調べてみます。

まずは、熊本市において今年に入ってから野菜の販売価格がどのように推移しているか確認してみましょう。

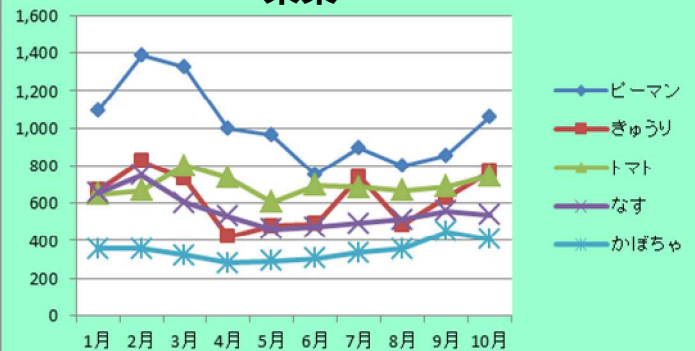
(全て1kgあたりの価格です。)

出典:小売物価統計調査

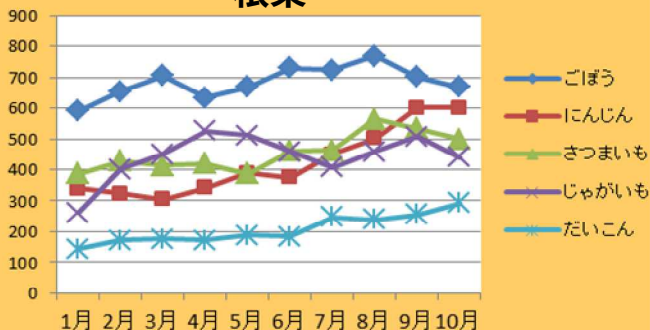
葉物野菜



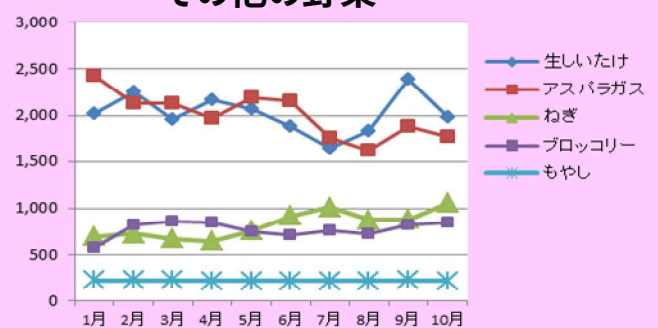
果菜



根菜



その他の野菜



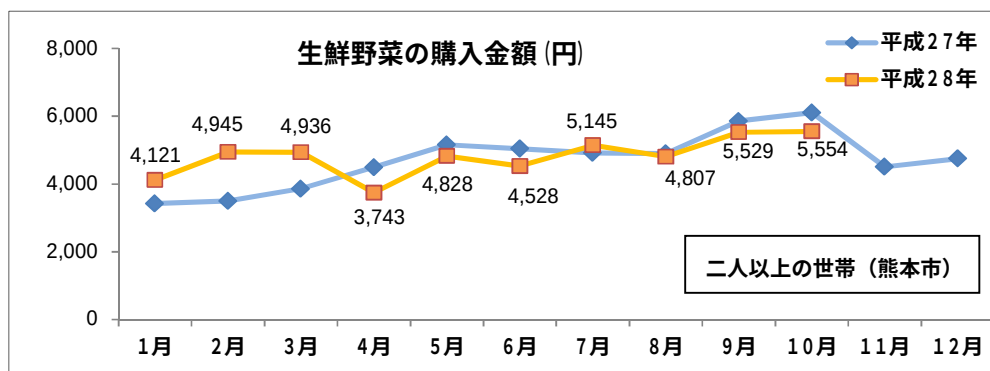
これをみると、「ほうれんそう」・「レタス」などの葉物野菜、「だいこん」・「にんじん」などの価格は高騰し、ものによっては2倍・3倍となっています。逆に「アスパラガス」の価格は低落し、「もやし」・「ブロッコリー」・「かぼちゃ」などのように概ね同水準で推移している野菜もあるようです。

ですので、一概に野菜全てが高騰しているわけではないということのようです。

悩ましかね...



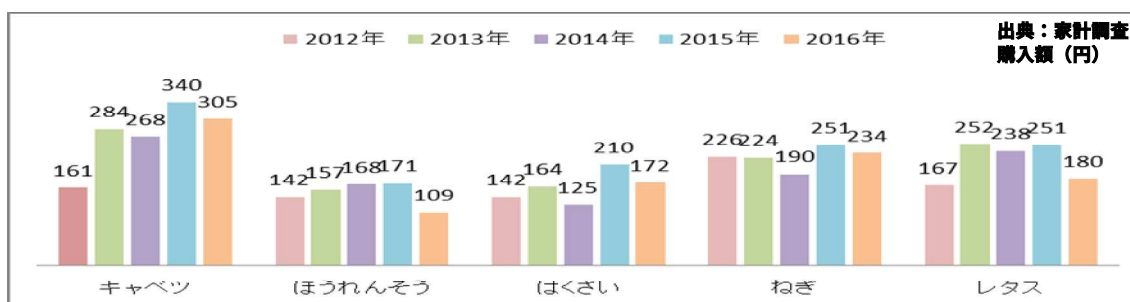
では、私たち消費者はこのような状況の中で、一体どれだけ野菜を購入しているのでしょうか？



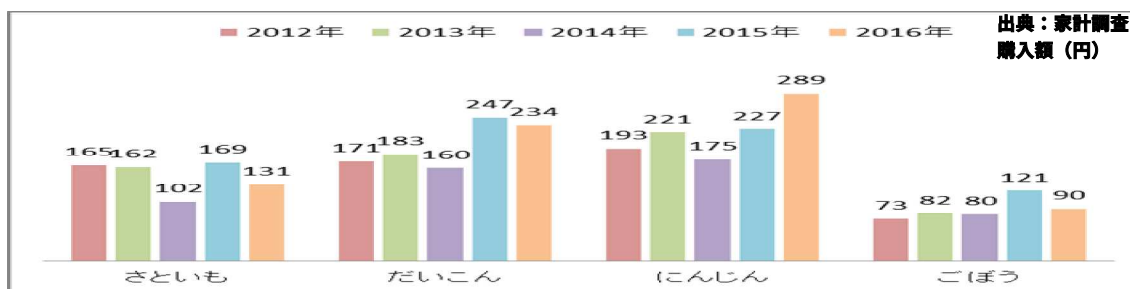
まずは左の図をご覧ください!!
熊本市における生鮮野菜購入額の推移を示したのですが、春から夏、秋と上昇していることがわかります。
野菜だけで1,000円以上の負担増は厳しいですね…。

出典：家計調査

続いて、この時期が旬の野菜と価格が高騰していた葉物野菜に絞り、過去5年間の購入額を比較してみました（それぞれ10月時点）



「にんじん」は概ね年々購入額が増加していますが、その他の野菜は今年は販売価格が高いがゆえに購入を控える傾向にあるようです。



野菜は、天候によって作柄が変動しやすく保存性も乏しいため、供給量の変動に伴い価格が大幅に変動します。
また、品目転換が比較的容易であることから、価格変動に応じて作付面積も変動しやすく、これに伴って供給量も変動し、さらに価格が変動するといった特性があります。

今年の天候不順の影響により家計に大打撃を受けたことは事実ですが、生産者の方々のたゆまぬ努力のおかげで、私たち消費者は今日もおいしい野菜を食べることができています。そういう意味では、感謝の気持ちを持ちながら今日は家族のためにお鍋にしてみてもいいのではないでしょうか。



最後にご紹介です。

11月22日（火）に県と県統計協会の共催で統計功労者表彰式が行われました。この表彰式は、統計功労者の方々や統計グラフコンクール入賞者の方々を表彰し、統計従事者の士気高揚を図り、また統計に対する関心と理解を深めるために毎年開催しているものです。今年度もくまモンがお祝いに駆けつけてくれたので、賑やかな式となりました。

受賞された皆様、おめでとうございます。



熊本県の統計情報は

「http://www.pref.kumamoto.jp/hpkiji/pub/List.aspx?c_id=3&class_set_id=1&class_id=1297」をご覧ください。

次回の「統計アラカルト」は、12月27日（火曜日）に掲載予定です。

問合せ先：熊本県企画振興部交通政策・情報局統計調査課 総務資料班 〒862-8570 熊本市中央区水前寺 6-18-1

電話：096-333-2174 / Fax：096-384-7544 / メール：toukeichousa@pref.kumamoto.lg.jp

統計アラカルト

熊本の統計情報 平成28年12月27日

県民の皆様に統計を身近に感じていただくためのページです。

毎月1回のペースで色々な統計に関する話題・データを紹介します。

あなたが知らない産業連関表の世界

今回の統計アラカルトは「産業連関表」を紹介します。

皆さんは「産業連関表」を使ったことがあるでしょうか？あるという人でも多くは「経済波及効果分析」をされたのではないのでしょうか？熊本県ホームページでは「経済波及効果分析ツール」を公開しており、誰でも簡単に分析を行うことができますので、興味がある方はぜひ使ってみてください。「習うより慣れる」です！！

HP アドレス http://www.pref.kumamoto.jp/hpkiji/pub/List.aspx?c_id=3&class_set_id=1&class_id=5174

「経済波及効果」とは、新たな需要（消費や投資など）が発生したとき、その需要を満たすために次々と生産が誘発されていくことを言います。その「経済波及効果」を計算する際に重要な役割を果たしているのが「逆行列係数」です。「逆行列係数」とは、ある産業に1単位の最終需要が発生したときに、各産業の生産がどれだけ必要になるかという生産波及の大きさを示した係数のことです。

1 「逆行列係数」と「列和」

表1

表1は、「平成23年熊本県産業連関表（3部門表）」の「逆行列係数表」です。

各列（タテ）の係数は、当該列部門に対する最終需要が1単位発生した場合において、各行部門で必要となる生産量を表しています。その合計を「**列和**」といい、当該列部門に対する最終需要1単位が産業全体に対して与える生産波及の大きさを表しています。

	第1次産業	第2次産業	第3次産業	行和	感応度係数
第1次産業	1.120033	0.036505	0.004280	1.160819	0.813669
第2次産業	0.104893	1.156456	0.056406	1.317755	0.923673
第3次産業	0.243121	0.270977	1.287269	1.801366	1.262657
列和	1.468047	1.463938	1.347955	1.426647	
影響力係数	1.029019	1.026139	0.944842		

部門別の列和を、列和全体の平均値で割ったものが「**影響力係数**」です。これは「どの列部門に対する最終需要があったときに、産業全体に与える生産波及の影響が強いかな」を表したものです。表1を見ると、産業全体に与える影響が一番大きいのは第1次産業（影響力係数 1.029019）ということが分かります。

ちなみに、各行（ヨコ）の係数は、各列部門に対してそれぞれ1単位の最終需要が発生した場合において、当該行部門で必要となる供給量を表しています。その合計を「**行和**」といい、部門別の行和を、行和全体の平均値で割ったものが「**感応度係数**」です。これは「各列部門にそれぞれ1単位の最終需要があったときに、どの行部門が相対的に強い影響を受けるか」を表しています。

2 「開放型逆行列の列和」と「自給率」の関係

今度は、13 部門分類の産業連関表で「**開放型逆行列の列和**」を見てみましょう。

まず、13 部門分類とは、産業を「農林水産業」、「鉱業」、「製造業」、「建設」、「電力・ガス・水道」、「商業」、「金融・保険」、「不動産」、「運輸・郵便」、「情報通信」、「公務」、「サービス」、「分類不明」に分類したものです。（「分類不明」は、他のどの産業にも属さず、産業連関表の誤差を含む部門であることから、分析から除外します。）

また、図1「**開放型逆行列の列和**」とは、県（国）外で生産される分（移輸入分）も含めて計算される県内の生産波及の大きさのことです。

図1では、「**鉱業**」、「**情報通信**」、「**運輸・郵便**」、「**農林水産業**」の順に値が大きいことが分かります。

※ 「開放型逆行列」…県（国）外からの移輸入がある通常の経済圏を想定したもの。「 $[I - (I - \hat{M})A]^{-1}$ 型逆行列」ともいう。

単純に考えると、県の経済力を高めるためには、「産業全体に生産波及の影響を与える**「列和」**が大きい産業を奨励すればよい。」ということになりそうです。でも、実際は違うんです。実は「**自給率**」（県内需要額のうち県内で生産された財・サービスが提供される割合）がとても重要な要素となっています。

県ホームページでは13 部門表以外にも、37 部門、104 部門の産業連関表を掲載しています。

37 部門表でみると、「**開放型の列和**」で一番大きいのは「**鉱業**」ですが、これを「経済波及効果分析ツール」で試算すると「経済波及効果」倍率は0.21 倍しかありません。「**農林水産業**」は1.24 倍、「**飲食料品**」は0.85 倍となっていますので、比較すると「**鉱業**」の倍率はとても低いことが分かります。これは、「**鉱業**」の「**自給率**」が6.5%と低いことが影響しているのです。「**自給率**」が低いということは、県外への生産波及が大きいということです。ちなみに、**農林水産業**の自給率は76.1%、**飲食料品**は33.8%です。つまり、「**列和（影響力係数）**」が大きいからといって、県内産業への「経済波及効果」が高いとは言えないのです。「**自給率**」が肝と言ってもいいくらいです。

3 「開放型逆行列の列和」と「閉鎖型逆行列の列和」との比較

では、「**自給率**」が100%の場合はどうなるのでしょうか。今度は、図2「**閉鎖型逆行列の列和**」を見てみましょう。

「**閉鎖型逆行列の列和**」とは、県（国）外からの移輸入は無く、需要は全て県内の生産によりまかなうこととして計算される県内の生産波及の大きさのことです。

図1「**開放型の列和**」では、「**鉱業**」の値が一番大きいのですが、図2「**閉鎖型の列和**」では、「**製造業**」が一番大きくなっています。「**開放型の列和**」が現状の熊本県経済、「**閉鎖型の列和**」が全産業の自給率

図1 開放型逆行列 列和

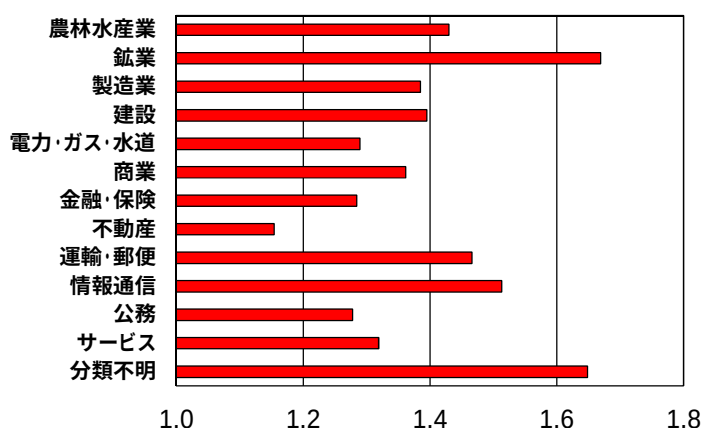


図2 閉鎖型逆行列 列和



が100%となった場合の熊本県経済ですので、図1と図2を比較すると、「製造業」はまだまだ潜在的な力を秘めていると言ってもいいのではないのでしょうか。

※ 「閉鎖型逆行列」・・・県(国)外からの移輸入がない完全自給の経済圏を想定したもの。「 $(I-A)^{-1}$ 型逆行列」ともいう。

さらにもう少し細かく見るために、37部門表、104部門表を見てみましょう(県ホームページに掲載)。

37部門表を見てみると、「開放型の列和」は「鉱業(砂利、碎石など)」、「情報通信」、「飲食料品」の順ですが、「閉鎖型の列和」は「鉄鋼」、「輸送機械」、「はん用機械(ボイラ、タービン、原動機など)」の順で値が大きくなっています。

また、さらに細かく104部門表を見てみると、「開放型の列和」は「広告」、「非金属鉱物」、「インターネット随サービス」の順ですが、「閉鎖型の列和」は「銑鉄・粗鋼・鋼材」、「自動車部品・同附属品」、「乗用車・その他の自動車」の順で値が大きくなっています。

このように、「開放型逆行列」だけではなく、「閉鎖型逆行列」を見ることによって、各産業の潜在的な経済波及効果を知ることができます。また、「自給率」が県内の経済波及効果に大きな役割を果たしていることは先に述べましたが、各産業の「自給率」が上がれば、「開放型の列和」が「閉鎖型の列和」に近づいていきます。このことから、各産業の「自給率」を上げることが重要な課題と言えるのではないのでしょうか。

いかがだったでしょうか？今回は産業連関表をちょっと深く読み込んでみました。他にも産業連関表には数多くの係数等があり、いろいろな分析ができそうです。産業連関表のデータは熊本県ホームページに掲載していますので、興味を持たれた方は是非ご覧になってください。

HPアドレス「http://www.pref.kumamoto.jp/hpkiji/pub/List.aspx?c_id=3&class_set_id=1&class_id=5174」

熊本県の統計情報は

「http://www.pref.kumamoto.jp/hpkiji/pub/List.aspx?c_id=3&class_set_id=1&class_id=1297」をご覧ください。

次回の「統計アラカルト」は、平成29年1月27日(金曜日)に掲載予定です。

問合せ先: 熊本県企画振興部交通政策・情報局統計調査課 総務資料班 〒869-8570 熊本市中央区水前寺 6-18-1

電話: 096-333-2174 / Fax: 096-384-7544 / メール: toukeichousa@pref.kumamoto.lg.jp

統計アラカルト

熊本の統計情報 平成29年3月24日

県民の皆様に統計を身近に感じていただくためのページです。

毎月1回のペースで色々な統計に関する話題・データを紹介します。

平成27年国勢調査人口等基本集計から見る熊本県

国勢調査については、大正9年から5年毎に実施され、最新の調査は平成27年に実施されました。

その調査結果は国で集計のうえ順次公表されており、先日、平成27年10月1日現在の国勢調査人口等基本集計が公表されました。

国勢調査の結果などから、あらためて熊本県を見てみましょう。

全国から見る熊本県

熊本県の平成27年10月1日現在の人口は、**1,786,170**人です。

日本全国の人口は127,094,745人で、前回調査の平成22年から962,607人の減少となっており、大正9年の調査開始以来、初めての減少となりました。

都道府県別に見てみると、東京都など8都県で人口増加の一方、39道府県で人口減少となっており、都市部やその周辺に人口が集中する状況が見られます。

熊本県の人口は、全国順位では多い方から23番目(前回も同順位)となり、中間ぐらいの順位となりますが、都道府県平均人口2,704,144人を下回っています。

平成22年調査からの増減数を見てみると、31,256人の減となり(△1.72%)、平成12年の調査以降、引き続き減少しています。

面積は7,409.35km²で大きい方から全国15位、人口密度は241.1人/km²で多い方から全国27位となっています。

次に九州・沖縄内で比較してみると、福岡県及び沖縄県以外の県では全て人口が減少しており、熊本県は福岡県に次いで人口では2位ですが、増減率は沖縄県、福岡県に次いで高い方から3位となっています。

地域	人 口								面積						
	総 数	全国 順位	九州 順位	H22からの 増減数	全国 順位	九州 順位	H22からの 増減率(%)	全国 順位	九州 順位	面積 (km ²)	全国 順位	九州 順位	人口密度 (1km ² 当たり)	全国 順位	九州 順位
福岡県	5,101,556	9	1	29,588	6	2	0.58	6	2	4,986.40	29	5	1,023.1	7	1
佐賀県	832,832	42	8	▲ 16,956	13	3	▲ 2.00	22	4	2,440.68	42	7	341.2	16	3
長崎県	1,377,187	29	5	▲ 49,592	36	7	▲ 3.48	39	8	4,132.09	37	6	333.3	18	4
熊本県	1,786,170	23	2	▲ 31,256	25	6	▲ 1.72	18	3	7,409.35	15	3	241.1	27	5
大分県	1,166,338	33	6	▲ 30,191	23	4	▲ 2.52	29	5	6,340.71	22	4	183.9	33	6
宮崎県	1,104,069	36	7	▲ 31,164	24	5	▲ 2.75	32	6	7,735.31	14	2	142.7	39	8
鹿児島県	1,648,177	24	3	▲ 58,065	41	8	▲ 3.40	38	7	9,186.94	10	1	179.4	36	7
沖縄県	1,433,566	25	4	40,748	5	1	2.93	1	1	2,281.12	44	8	628.4	9	2

市町村の人口増減から見る熊本県

熊本県内市町村別の前回調査（H22）からの人口増減を見てみると、人口が増加したのは熊本市、合志市、大津町、菊陽町、西原村、嘉島町、上益城町の7市町村で、他の38市町村は減少しています。

人口増減率を見てみると、最も増加率が高いのは、菊陽町（+8.61%）、次いで大津町（+7.10%）、合志市（+6.12%）の順となっています。

なお、菊陽町と大津町は全国的に見ても増加率が高く、**菊陽町が全国市町村で16位、大津町が19位**となっています。

逆に、減少率が最も大きいのは、球磨村（△12.97%）、次いで五木村（△12.45%）、山都町（△10.79%）となっています。

右上の図は、人口増減率を地図にしたものです。これを見てみると、熊本市近郊の市町村へ人口が集中していることがわかります。

いかがでしたでしょうか？今回は人口の面から見てみましたが、それ以外の様々なことが国勢調査の結果からわかります。結果については国のホームページのほか、県のホームページにも掲載しています。

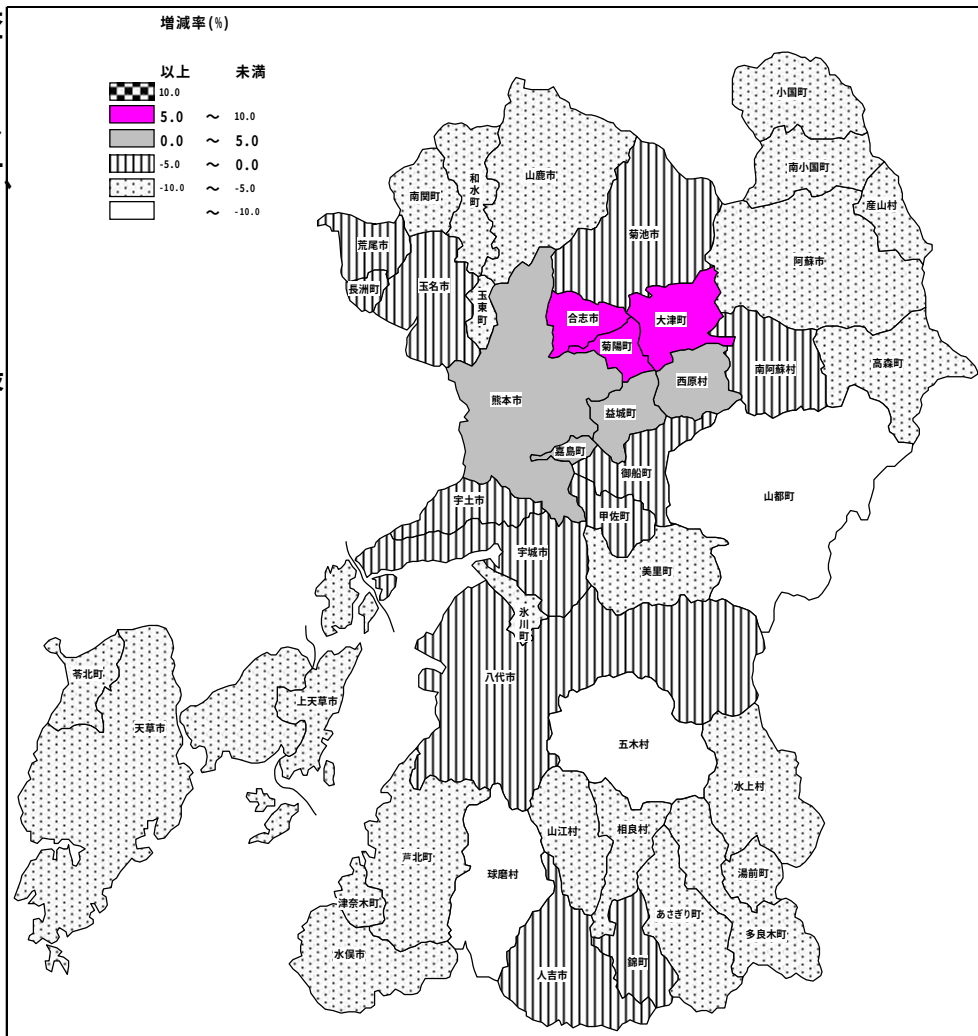
また、国勢調査がない年については、毎月末にその月の1日現在の人口を県で取りまとめて公表しています（推計人口調査）。こちらも県のホームページに掲載していますので、ぜひ御覧ください。

国（総務省統計局）ホームページ：<http://www.stat.go.jp/data/kokusei/2015/index.htm>

熊本県ホームページ

（国勢調査の結果）：http://www.pref.kumamoto.jp/kiji_17460.html

（推計人口調査）：http://www.pref.kumamoto.jp/hpkiji/pub/List.aspx?c_id=3&class_set_id=1&class_id=5133



熊本県の統計情報は

「http://www.pref.kumamoto.jp/hpkiji/pub/List.aspx?c_id=3&class_set_id=1&class_id=1297」をご覧ください。

次回の「統計アラカルト」は、4月28日（金曜日）に掲載予定です。

問合せ先：熊本県企画振興部交通政策・情報局統計調査課 総務資料班 〒862-8570 熊本市中央区水前寺 6-18-1

電話：096-333-2174 / Fax：096-384-7544 / メール：toukeichousa@pref.kumamoto.lg.jp

統計アラカルト

熊本の統計情報 平成29年3月24日

県民の皆様に統計を身近に感じていただくためのページです。

毎月1回のペースで色々な統計に関する話題・データを紹介します。



賃金の男女間格差って？ ～賃金構造基本統計調査より～



今年の2月22日に平成28年の賃金構造基本統計調査の結果が公表されました。この調査で、『男女間賃金格差の縮小』や、『短時間労働者の賃金（1時間当たり）の増加』といった特徴が見られました。そこで今回は、全国と熊本県の『男女間賃金格差の推移』と『短時間労働者の賃金の推移』を見ていきたいと思います。

まず、全国と熊本県の男女ごとの給与の推移について見ていきます。右のグラフは、図1が全国、図2が熊本県の給与の推移を表したグラフです。

全国では、平成17年と比較して、男性にはほぼ増減が見られず、女性では給与の増加が見られます。

熊本県での給与の推移を見ていくと、男性では全国と比較して多少ばらつきがあるものの、平成17年と比較してほぼ増減が見られません。女性の給与の推移は全国と同様、増加傾向にあることがわかります。

次に、男女間の賃金格差について、見ていきます。今回の調査では男性の給与を100とした場合の女性の給与を、男女間賃金格差を表す指数としています。格差が小さいほど、指数が100に近くなります。

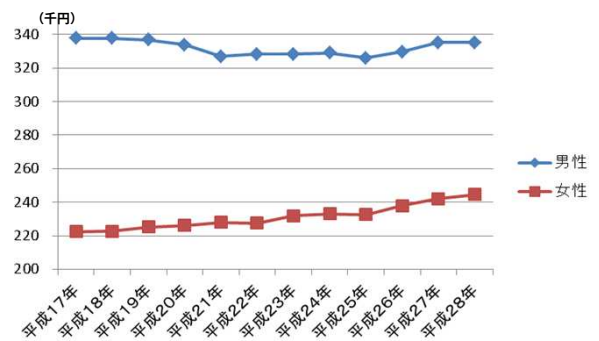


図1：所定内給与の推移（全国）

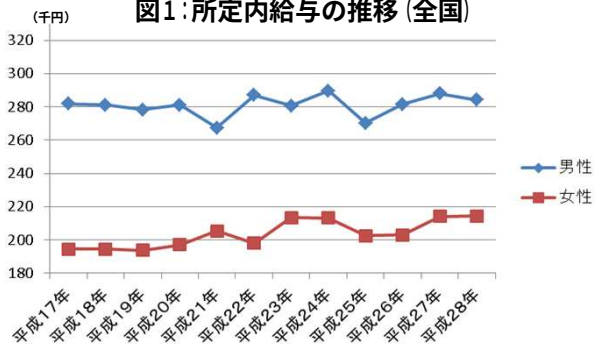


図2：所定内給与の推移（熊本県）

出典：賃金構造基本統計調査

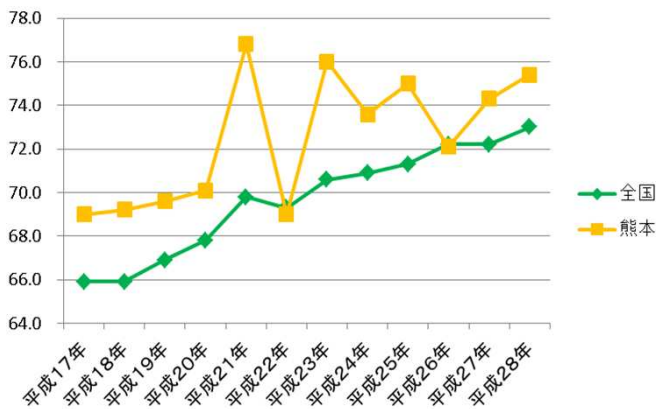


図3：男女間賃金格差の推移

出典：賃金構造基本統計調査

図3が、全国と熊本県の男女間賃金格差の推移を表すグラフです。

全国について見てみると、指数の増加が見られ、男女間賃金格差が小さくなっていることがわかります。

熊本県について見てみると、年度によってバラつきがありますが、全体として指数は増加傾向にあることと、全国と比較して、熊本県の方が指数が100に近い傾向にあり、格差が小さいことが見て取れます。

次に、もうひとつの特徴である『短時間労働者の賃金（１時間あたり）の推移』について見ていきます。右のグラフは図４が全国、図５が熊本県の短時間労働者の賃金の推移を表したグラフです。

全国についてですが、男性、女性共に賃金の増加が確認できます。平成１７年と比較して平成２８年の賃金は、男性で６５円、女性で１１２円増加しており、女性の方が賃金の増加額が高いことがわかります。

一方、熊本県についてですが、男女共に増減を繰り返していますが、平成１７年と比較して平成２８年では男女とも賃金が増加していることがわかります。熊本県で増加した賃金の額は、男性で８７円、女性で１００円となり、こちらも女性の方が増加額が高くなりました。

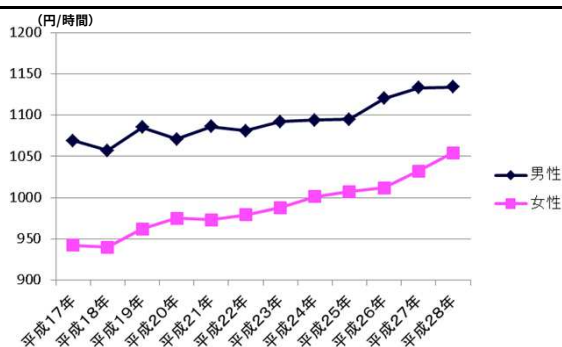


図４：短時間労働者の賃金の推移（全国）

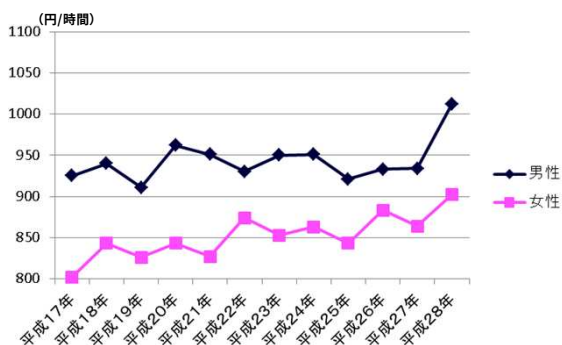


図５：短時間労働者の賃金の推移（熊本県）

出典：賃金構造基本統計調査

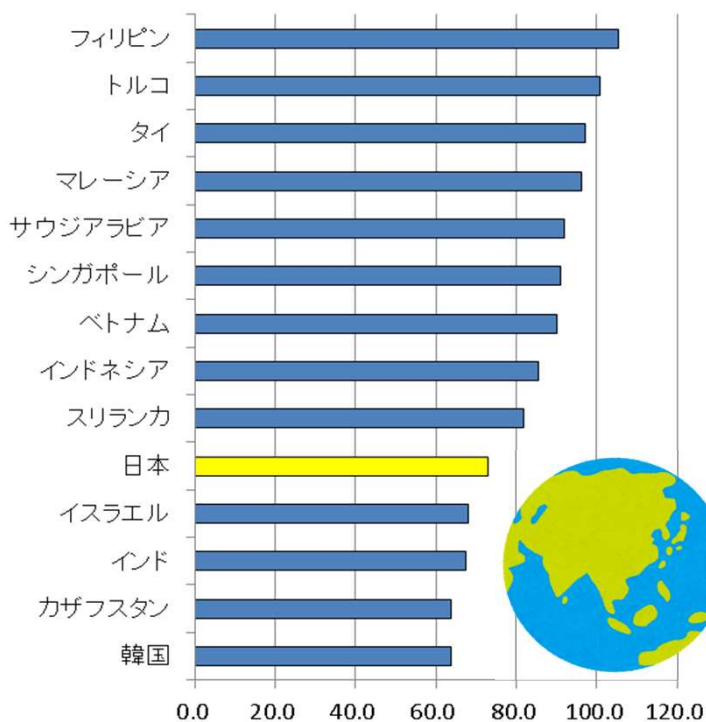


図６：アジア各国の男女間賃金格差

出典：平成２８年賃金構造基本統計調査
総務省統計局「世界の統計 2017」

最後に、平成２８年賃金構造基本統計調査の結果と、総務省統計局が発行している「世界の統計 2017」を元に、アジア各国の男女間賃金格差を比較したグラフが図６になります。指数が高い順から見ていくと、フィリピンが１０５．５、トルコが１００．７、タイが９７．２と続き、日本は７３．０で、１４か国中１０番目という結果になりました。

今回の調査で、『男女間賃金格差の縮小』が見られましたが、アジア各国の中で比較すると、まだまだ男女間格差の大きい方に日本は位置しているようです。



熊本県の統計情報は

「http://www.pref.kumamoto.jp/hpkiji/pub/List.aspx?c_id=3&class_set_id=1&class_id=1297」をご覧ください。

今回の「統計アラカルト」は、４月２８日（金曜日）に掲載予定です。

問合せ先：熊本県企画振興部交通政策・情報局統計調査課 総務資料班 〒862-8570 熊本市中央区水前寺6-18-1

電話：096-333-2174 / Fax：096-384-7544 / メール：toukeichousa@pref.kumamoto.lg.jp